

茨農セ園研式・イチゴ高設栽培の防藻対策

[要約]

茨農セ園研式・イチゴ高設栽培において、春先以降に栽培槽および貯水槽に大量に発生する藻を防ぐ手段として、ベンチ周縁部の黒マルチ被覆が簡易・安価で高い効果がある。

茨城県農業総合センター園芸研究所

成果
区分

技術情報

1. 背景・ねらい

茨農セ・園研式高設栽培は、灌水余剰水を循環利用するため、3月以降に貯水槽および栽培槽下部に藻が大量発生し、灌水チューブの目詰まりにつながるほか、見栄えが悪くなる。そのため、簡易な防藻対策を検討する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 厳寒期に保温用に装着していた透明マルチを外し、黒マルチを装着する(図1)。
- 2) 黒マルチ被覆により、栽培槽下部の藻の発生は大幅に抑えられる(図2)。
- 3) 黒マルチ被覆により、貯水槽の藻の発生は大幅に抑えられる(図3)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 黒マルチの被覆時期については、暖候期以降の透明マルチ除去後に行う。透明マルチ被覆時に重ね張りし、黒マルチのみ束ねておくのもよい。
- 2) 本試験では、藻が発生し始めた4月に黒マルチを被覆したが、十分な防藻効果が得られた。
- 3) 本試験では、黒マルチ被覆後のイチゴに及ぼす影響について調査していないが、被覆後に生育が悪化したようにはみられなかった。
- 4) 黒マルチで栽培終了後に栽培槽を被覆し、太陽熱消毒に用いることができる。
- 5) 黒マルチに要する費用は、10a(ベンチ長800m)あたり9,600円である。

4. 具体的データ



図1 黒マルチの被覆状態(右ベンチ)



図2 栽培槽の藻の発生状況 (左：無処理、右：黒マルチ)



図3 貯水槽の藻の発生状況 (左：無処理、右：黒マルチ)

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

茨農セ園研式・イチゴ高設栽培の高収益型栽培技術開発・平成18～20年度・野菜研究室